

東京都葛飾区

ちよつとちよつと

ヒマだったら
おつかいに
いってきて
くれない？

おつかい？

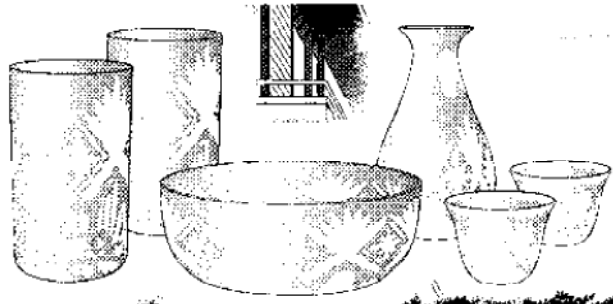
おはあちゃん！

大事にしてる
江戸切子のグラスが
欠けちゃったのよ
連絡はもう
してあるから
直してくれるところに
持っていくってほしいの

江戸切子…

ここね！
(株)清水硝子!!

近くに
こんな工場が
あったんだ…



葛飾ブランド「葛飾町工場物語」

作・公所 弘真

下町に輝く伝統技術

～カットグラス加工製品(伝統工芸江戸切子)～

株式会社清水硝子

こんにちは！

社長の清水です！

清水三千代社長

確かに預かりました
あとでご連絡
差し上げますね

あ…はい
お願いします

あの、
江戸切子って
なんなん
ですか？





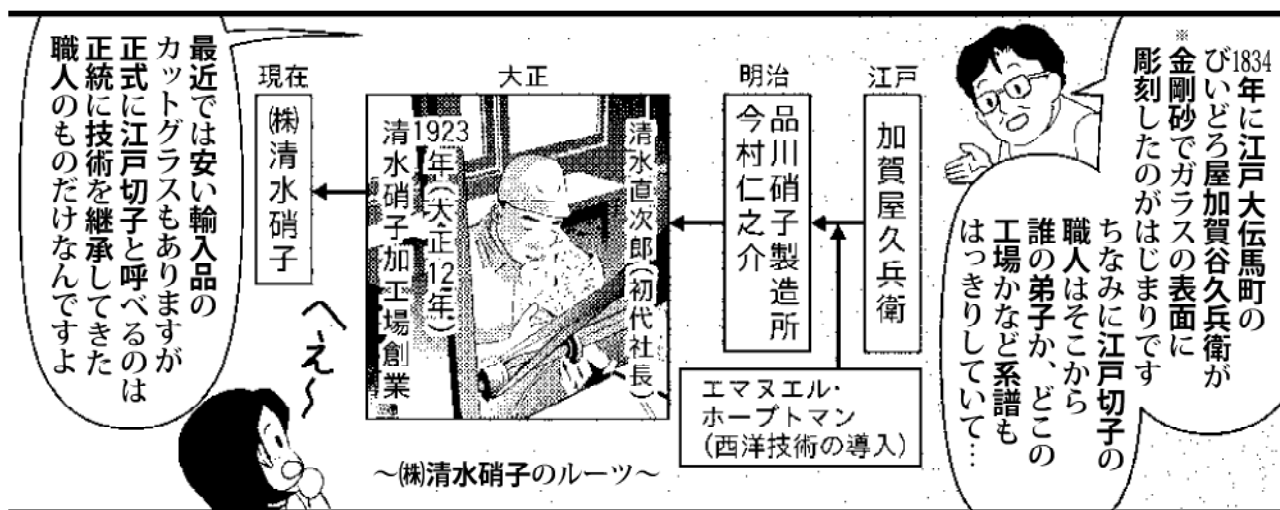
そんなに歴史があるものなんですか…

国や都で伝統工芸として指定されていますし、ここ葛飾の伝統産業でもあるんですよ



切子というのはこんなふうにガラスの表面にカットで模様を入れる技術のことです

中でも江戸発祥の伝統的な工法を施したものを江戸切子というんです

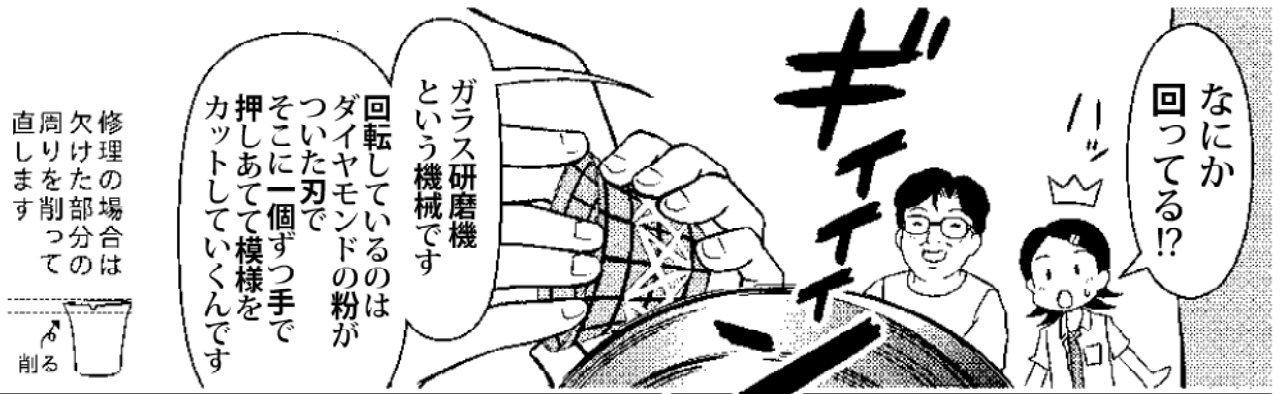


ここが作業場です

でもガラスの表面にどうやってこんな模様を彫るんですか？

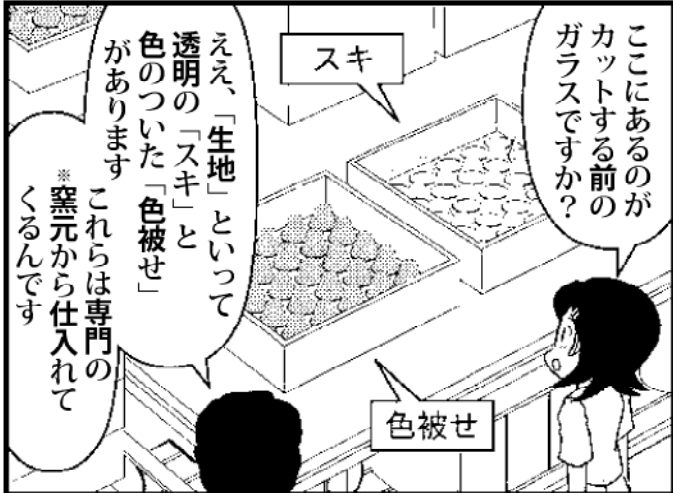
つくってるところをご覧になりますか？

えっ、いいんですか!?



修理の場合は
欠けた部分の
周りを削って
直します
削る

ガラス研磨機
という機械です
回転しているのは
ダイヤモンドの粉が
ついた刃で
そこに一個ずつ手で
押しあてて模様を
カットしていくんです



ええ、「生地」といって
透明の「スキ」と
色のついた「色被せ」
があります
※窯元から仕入れて
くるんです

ここにあるのが
カットする前の
ガラスですか？



昔は鉄の刃を使ったり
モーターが導入される前は
やすりで削っていた
そうですよ

伝統工芸も
時代とともに道具は
発達していくんです

※熱した窯でガラスを成形する業者や職人



そのアタリをもとに
カットしていくので
すべての基準となる重要な
作業なんです

あのようにマジックで
生地にアタリの線を
引いていくんです



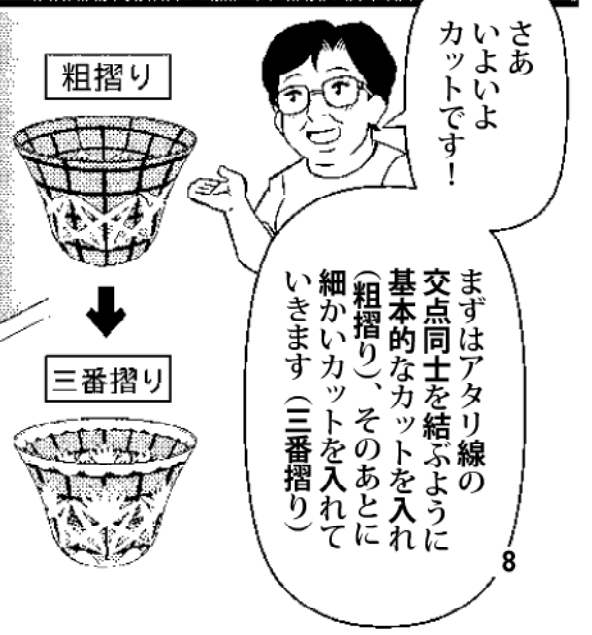
あれ？ こつちの生地は
なにか線みたいなのが
引いてある!?

それが一番最初に
やる「割出し」という
作業です



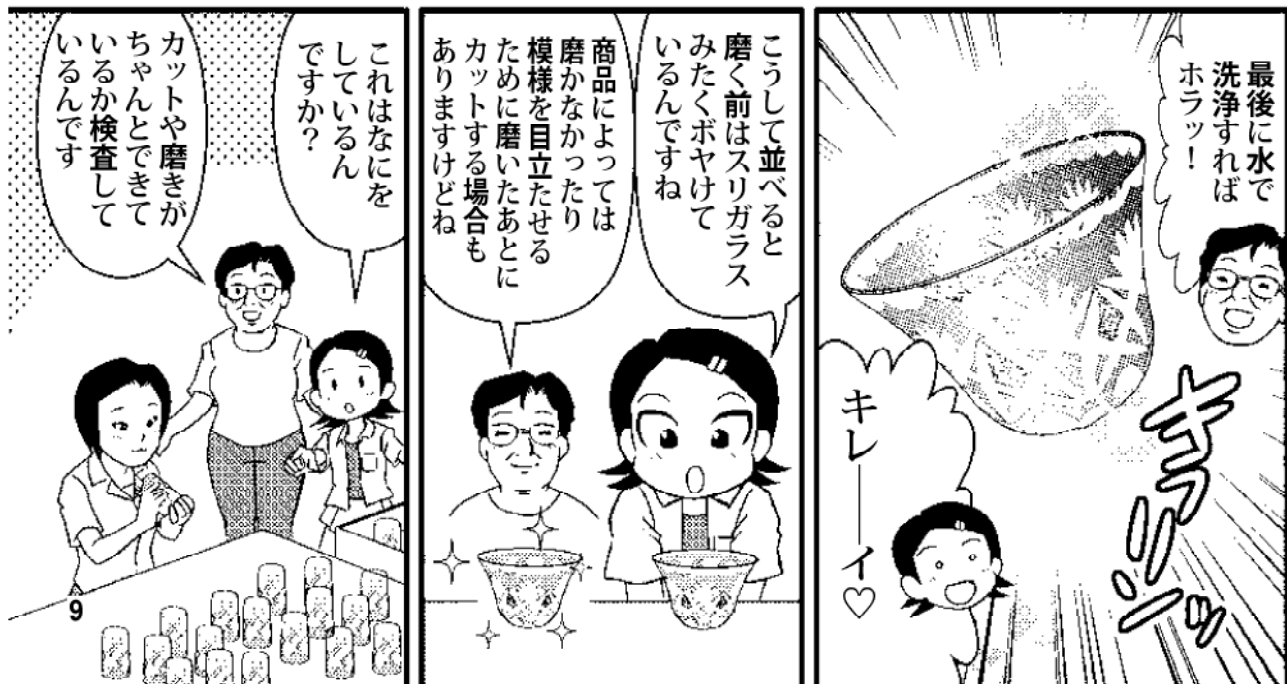
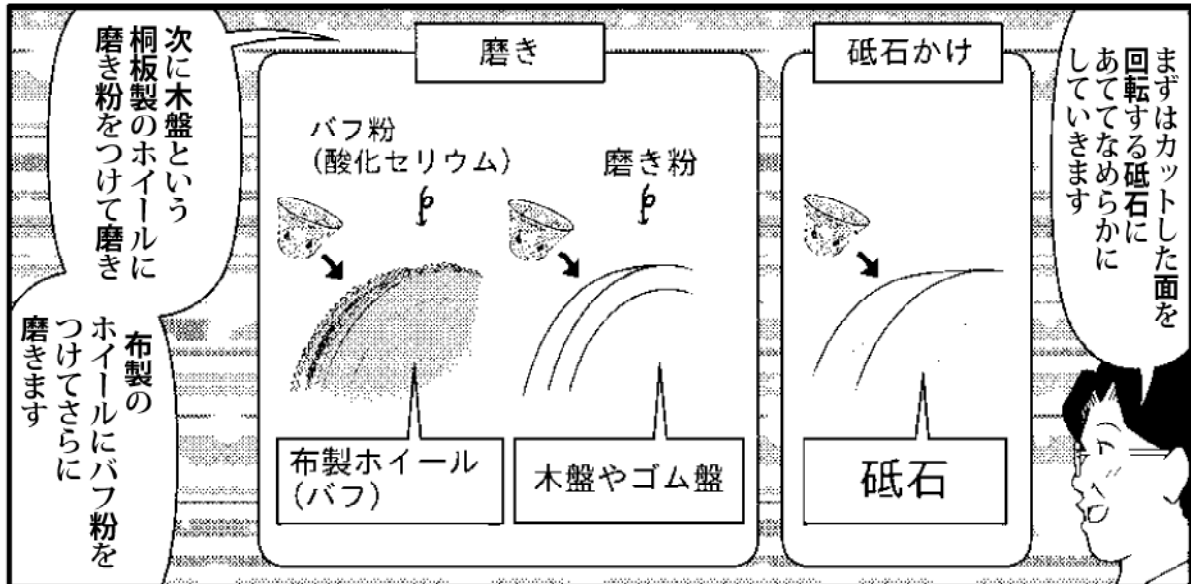
なるほど！
表面の色の層が
削られてその下の
透明の層が模様
に見えるわけですね

カットする模様によって
刃の形状が異なる
ホイールをつけ替える



さあ
いいよいよ
カットです！

まずはアタリ線の
交点同士を結ぶように
基本的なカットを入れ
(粗摺り)、そのあとに
細かいカットを入れて
いきます (三番摺り)





同じものを何個も正確につくることが職人の仕事として重要なんです

今日と明日でつくっているものに違いがあったら商品として成り立ちませんからね

そのために最初割出しはできるまで何度もやり直しさせられましたよ
おかげで今では色んなデザインに対応できるようになりましたよ

〇〇〇



伝統工芸って年配の職人さんがやってるイメージですけど若い人が多いんですね…
こういう細かい作業って大変じゃないですか？

大変だけど面白いですよ

今までできなかったことができるようになったりするとうれしいですよ

仕事は厳しいけどのびのびやらせてもらってますよ

技術が身につくまでは年数がかかるものですが彼女達は優秀ですね

もう十分戦力ですよ！

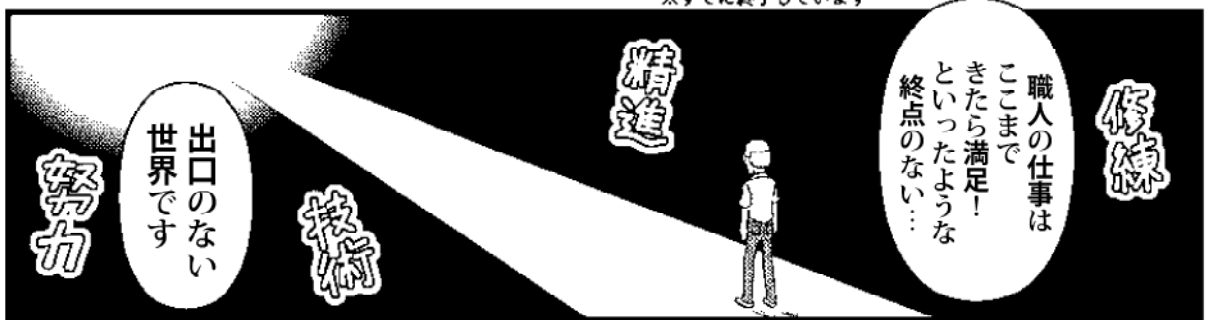
職人の系譜に新たに書き加えられるわけですね！

葛飾区認定伝統工芸士の三田工場長

先輩の中宮さん

葛飾区伝統工芸職人弟子入り支援制度で入社した青山さん・長島さん

※すでに終了しています



職人の仕事はここまできたら満足！といったような終点のない…

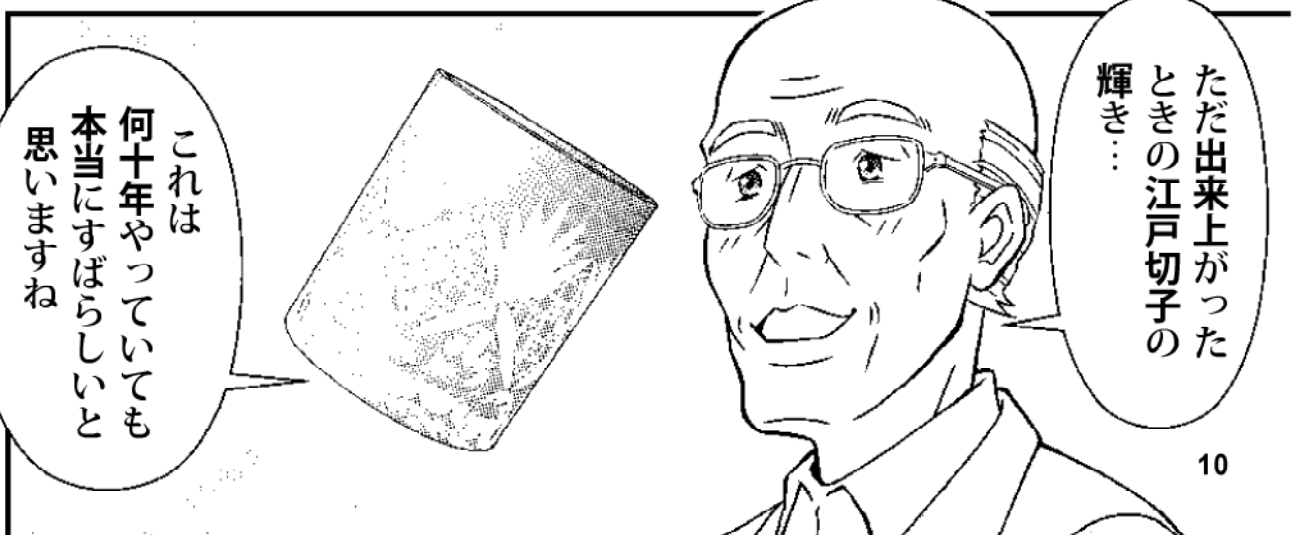
精進

修練

技術

出口のない世界です

努力



ただ出来上がったときの江戸切子の輝き…

これは何十年やっつけていても本当にすばらしいと思いますね

